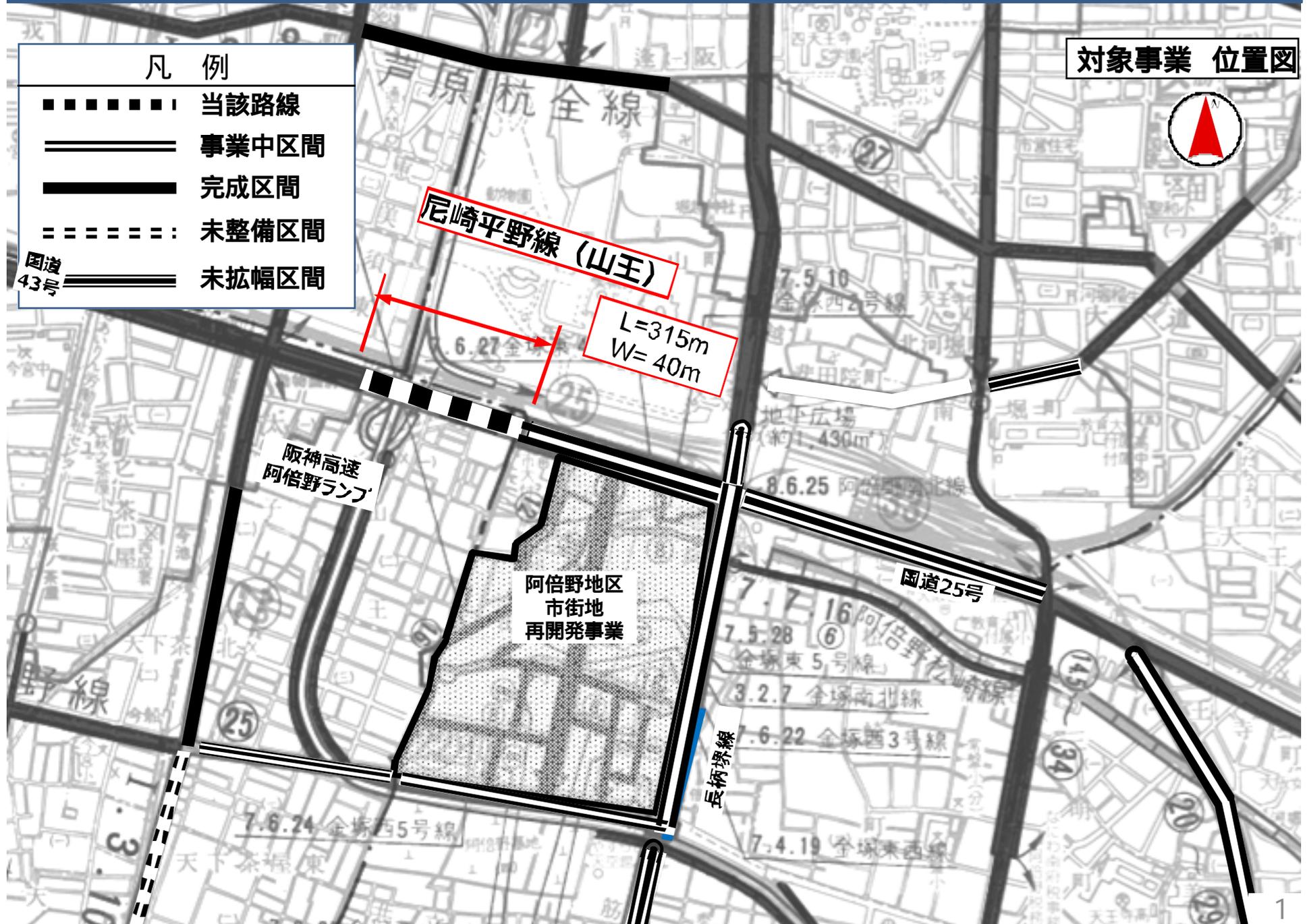


凡 例	
■■■■■■■	当該路線
====	事業中区間
————	完成区間
-----	未整備区間
———	未拡幅区間
国道 43号	

対象事業 位置図



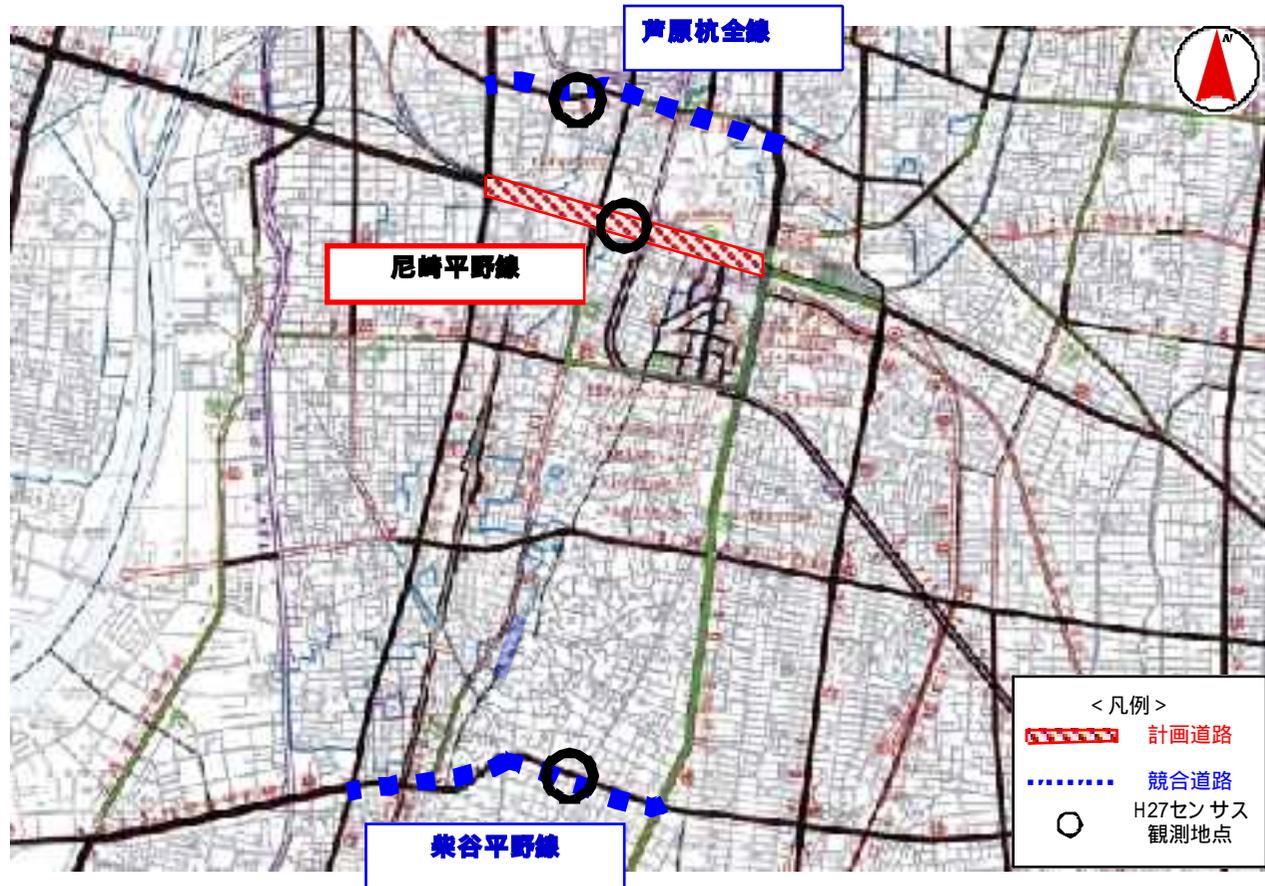
便益 (単位：億円)

走行時間短縮	4.4
走行経費減少	0.2
交通事故減少	0.2
歩行者快適性向上	1.5
合計(初年度便益)	6.3
便益総額の 現在価値	94.2

費用 (単位：億円)

事業費 (単純合計)	46.5
維持管理費 (単純合計)	0.5
投資総額の 現在価値	81.5

社会費用便益比B/C	1.16
------------	------



注) 便益額、費用額については単位(億円)下一桁を四捨五入しているため、合計値の端数が合致しない場合もある。

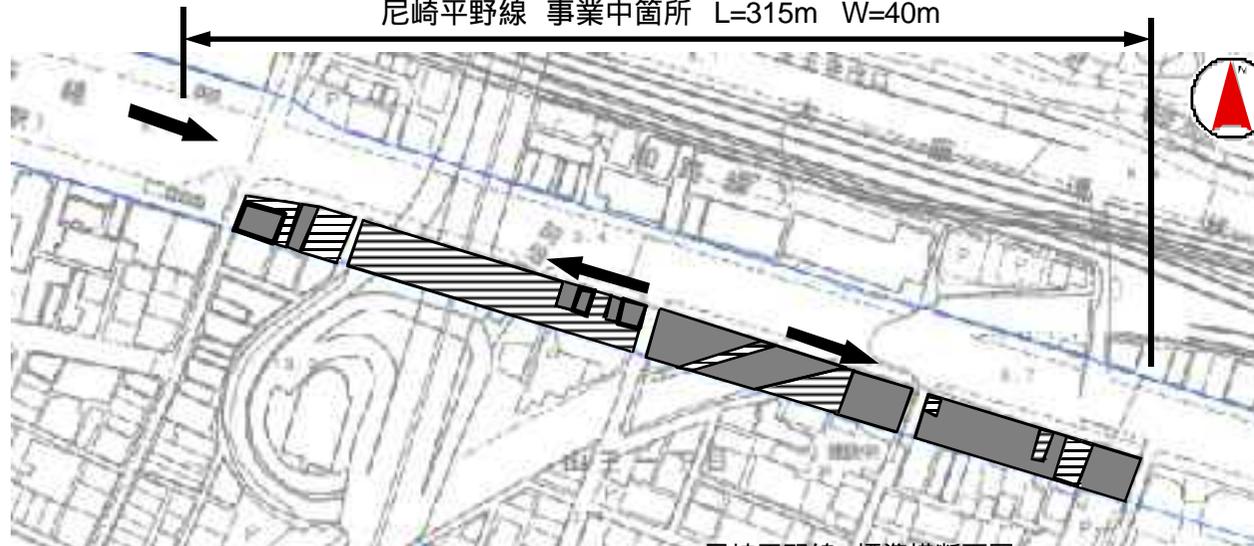
図 - 尼崎平野線と競合路線

図3 進捗状況

(4事業の実施見通しの視点 事業規模)



尼崎平野線 事業中箇所 L=315m W=40m

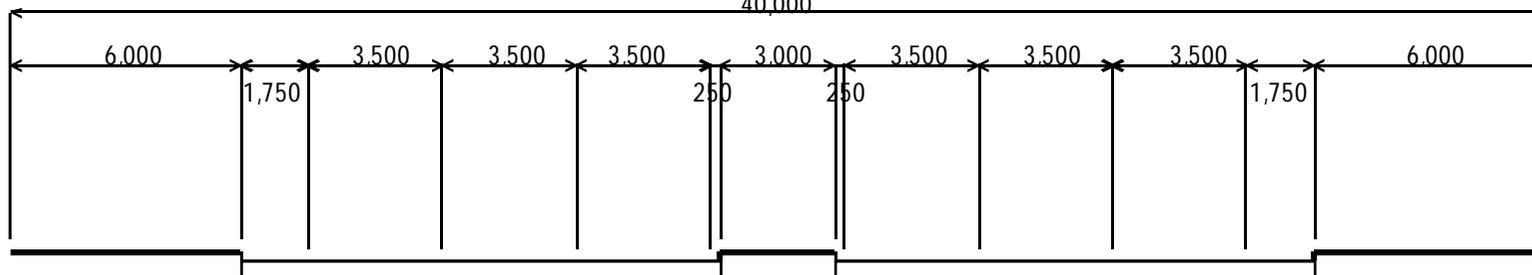


凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所
	前回評価時(H25)からの進捗箇所

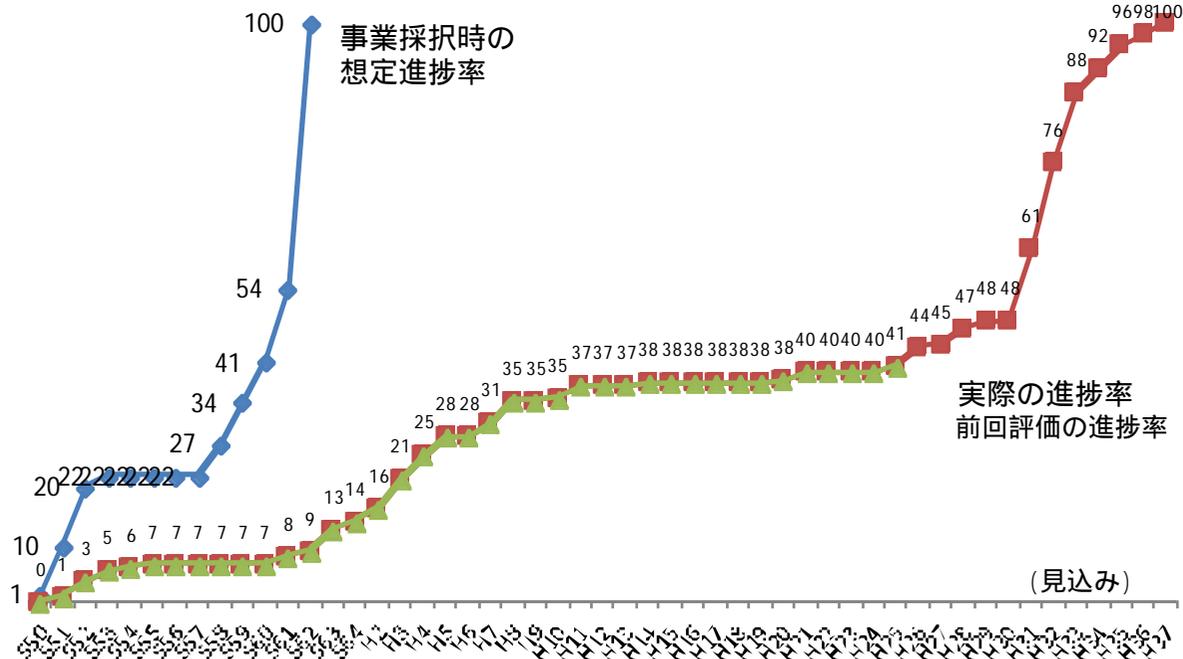
用地取得率：48% (面積ベース)
 工事進捗率：0% (面積ベース)

事業費ベース進捗率：48%

尼崎平野線 標準横断面図
40,000



進捗率の推移 (単位: %)



残事業の内容

- ・用地取得20件 (2,368㎡)
- ・道路工事 (延長315m、面積12,600㎡)
- ・残事業費約24億円

今後のスケジュール (見込み)

- ・平成37年度 事業完了予定

事業が遅延した原因とその状況

- ・用地取得において、近年の下落傾向にある土地価格での売買に難色を示されていることなどで、用地買収が難航し、事業が長期化していた。
- ・財政状況においても悪化しており、年次計画どおりの予算確保が難しく、当初計画に比べ進捗が遅れていた。

対応と解消の目途及びその根拠

- ・本路線は、用地取得の難航により事業が長期化していたが、買取要望等により取得した箇所から通路として暫定整備を行うとともに、既設道路には歩道を有していることから、歩行者の通行空間は一定確保している。また、限られた予算の中で本路線への重点的な予算の配分は難しかったため、買取要望に対応するための予算確保に努め事業進捗を図るものの、年次計画どおりの進捗は難しい。